

「考える防災教室」で学んだこと

地震だ!! まず何をする

令和3年7月16日(金) 13時30分より日本主婦連合会本部事務所にて、大阪ガスの田中久雄様・吉田聡様をお迎えして、役員研修が行われました。

初めに田中様から「コロナ禍で一年半程、このような形で人との交流がなく、さみしい思いをしておりました。やはり人との交流は大切だと、

改めて思います」とのご挨拶がありました。続いて吉田様から小学校でも、防災授業の一環として行っている「考える防災教室」の講演をしていただきました。

いまさらですが、地震をはじめ近年の豪雨災害など、異常気象が世界的に起こっております。改めて自分が住まいる地域の「ハザードマップ」

に目を向け、まず自分の命を守る(自助)、家族や地域の方々を守る(共助)為にも確認していただきたいと喚起がありました。今回事務所大阪ガス作成の「考える防災教室」の冊子は2018年に消費者支援センターより優秀賞を受賞されています。

吉田様より初めに「皆さん、想像してください。ガスを使用している時、震度5の地震があったとします。その時一番にする行動は?の質問に「火を消す」が多くの意見でしたが、吉田氏は「そう思うでしょうが、身の安全の確認が一番!」とのこと。ガスは地震の場合止まりま

た。また、魔法瓶バスタなど、災害時の料理も教えていただき、平時に練習をと思いました。災害は、いつ来るか、どこに来るか予想が出来ないことが殆どです、今までなかったからの安心も出来ません。生命を守るのが第一ですが、その後どう生活するか?避難所が自宅により違うでしょうが、このような知識を知っているか、いないかで復旧までの生活は大きく違ってくることを考えます。コロナ禍で自宅避難も進められています。家でやりすごすことが出来れば、気をつかわずに生きられます。

そして、災害に会い、電気もガスも水道も止まると様々な知恵があります

お話の中でも口腔ケアの大切さは、なるほど!でした。その他、素足では危い時の紙スリッパ、紙食器はじめ、リュックにビニール袋を二重に入れた水タンクとして運ぶなど様々な知恵があります

小学生からの「考える防災教室」ですが、年齢に関係なく、一人でも多くの方々に知っていただきたい知識、アイデアが詰め込まれた冊子でした。短い時間でしたが、有意義なひとときでした。ありがとうございました。

日本主婦連合会役員研修会

講師に大阪ガスの田中・吉田両氏お招きして



講演される吉田氏(右)と田中氏(左)